

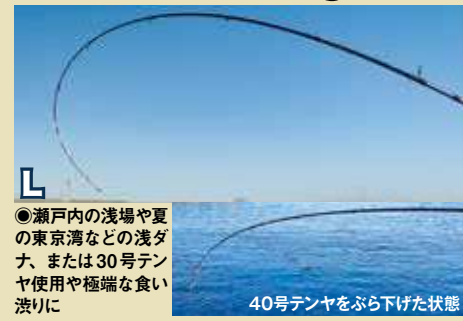
タチウオ攻略のカギは5アイテム

タチウオテンヤMS
三石忍が実戦で
磨き上げた5アイテム

●発売以来テンヤロッドの定番となりつつある三石忍プロデュースの「タチウオテンヤMS」。中弾性素材と高弾性素材をミックスした操作性と感度に優れたブランク、これに高強度、高感度のスーパートップを搭載したテンヤタチウオ最強モデル。糸が絡みにくいスパイラルガイド設定の全5アイテムで、今や全国的な釣法となっているテンヤタチウオの釣り場、今回三石さんが披露した深追い掛け、パイブレーションなど様々な釣法に対応可能となった。

タイプ	標準全長 (m)	希望本体価格 (円)	標準自重 (g)	仕舞寸法 (cm)	使用材料 (%)	モーメント	継数 (本)	先径 (mm)	錘負荷 (号)
L	1.8	38,500	120	135.0	C99.9 / G0.1	5.3	2	0.8	20~50
ML	1.8	38,500	120	135.0	C99.9 / G0.1	5.3	2	0.8	20~50
M	1.8	38,500	123	135.0	C99.9 / G0.1	5.6	2	0.9	20~50
MH	1.75	38,500	123	130.0	C99.9 / G0.1	5.5	2	0.9	30~60
H	1.73	38,500	128	128.0	C99.9 / G0.1	5.7	2	1.0	30~60

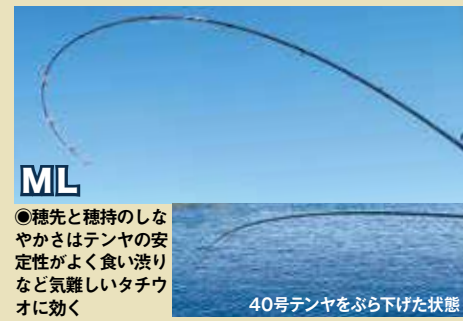
※C = カーボンファイバー、G = グラスファイバー。※モーメント = 標準自重 (kg) × 竿尻から重心までの長さ (cm)。※上記の釣竿にはエポキシ樹脂を使用



L

●瀬戸内の浅場や夏の東京湾などの浅大な、または30号テンヤ使用や極端な食い渋りに

40号テンヤをぶら下げた状態



ML

●穂先と穂持のしなやかさはテンヤの安定性がよく食い渋りなど難しいタチウオに効く

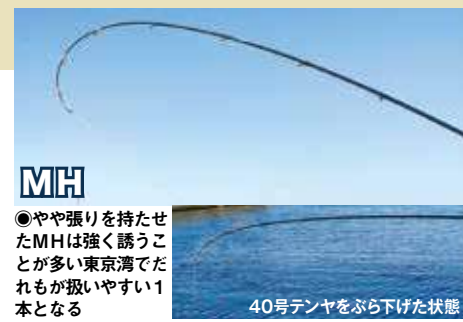
40号テンヤをぶら下げた状態



M

●中間となるMはしなやかさとコントロール性のバランスがとれたオールマイティタイプ

40号テンヤをぶら下げた状態



MH

●やや張りを持たせたMHは強く誘うことが多い東京湾でだれも扱いやすい1本となる

40号テンヤをぶら下げた状態



H

●最も張りの強いHだがバリカタな91ではなくクッション性も両立させる82調子に近い

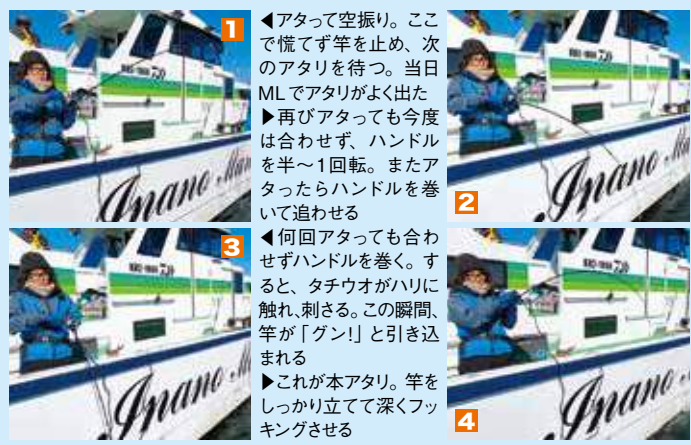
40号テンヤをぶら下げた状態



▲がまかつが独自に開発した超高強度・超高感度ソリッドトップ「スーパートップ」を搭載。さらにガイドをスパイラル設定とすることで糸絡みのトラブルも軽減する実戦仕様だ

深追い掛けのススメ

●この日、早春の閑絶タチウオを制したのはタチウオテンヤMS・MLだった



1 ▲アタって空振り。ここで慌てず竿を止め、次のアタリを待つ。当日MLでアタリがよく出た
2 ▶再びアタっても今度は合わせず、ハンドルを半~1回転。またアタったらハンドルを巻いて追わせる
3 ▲何回アタっても合わせずハンドルを巻く。すると、タチウオがハリに触れ、刺さる。この瞬間、竿が「グン！」と引き込まれる
4 ▶これが本アタリ。竿をしっかり立てて深くフッキングさせる

察知するのはいいが、今度は即掛けが困難なついでにむようなアタリ、つまり閑絶モードに変わる。そこで、「MHが効果的だったのはあの時間だけだったかも。ならばMに戻すのではなく、もっと軟らかいMLにします」これが正解だったようで、小さなアタリがきて合わせ損ねても、追わせて掛けられるようになった。洗いにアタリを出し、深追いさせやすいのはソフトな調子、つまりMLなのだ。「タチウオテンヤMSの場合、MやMLのしなやかさ、敏感さが今日の閑絶気味の状況に向いています。どちらも元はしっかりしているの、ドラゴンサイズでもしっかりフッキングさせられるんです」潮境を足がかりに見つけた今日のキーワードは「深追い掛け」。そしてカギは「ML」だったというわけだ。

テンヤタチウオ
「本アタリ」を見極める術

★全長121センチ！
深追い掛けて閑絶タチウオを攻略



◀テンヤは40号。この日はフタを出さずに巻いたイワシのほうがよくアタった

◀真冬から春にかけても大津沖60メートル台で釣れ続けている

三石忍タチウオテンヤMSを駆使
春の閑絶タチウオに深追い掛け!

●周年狙える東京湾のタチウオにあつて厳冬期~春は反応はあつても食わない最も活性の低い時期。今回三石忍さんが披露してくれたのはそんなときだからこそそのテンヤ釣法、深追い掛けと言われる釣り方だ。

▲小さなアタリを弾かずにテンヤを追わせ、何回もアタリを出させる

「まず当日の展開を組み立てることに始めます。いつもならMHなのですが、この時期は活性の低いことを予想してMから始めます」と三石さん。乗船した三浦半島京急大津港のいな丸は、大津沖水深60メートル前後、タナ50~55メートルの指示で釣り開始となった。プチモニタリングサービスが、予想に反して周りはますますの釣れ具合。でも三石さんはいつもどおり、誘い方、テンヤの色などを変えながら、周囲がやらない方法を試して当日の様子を探るスロースターター。朝のダツシユには乗り切れない。徐々にアタリが落ちて着いてくる。これだから腕の見せどころ、この時期ならではの攻略法の実践だ。指示ダナのやや上にある潮境に狙いをつけ、定点パイブレーションで誘うとすぐに派手な跳ね上げアタリがきたが、合わせきれず。ここで、「ワンランク硬いMHを使ってみます」と三石さん。MHは潮境を

★タチウオテンヤMS
・MLは穂先~穂持は敏感かつしなやか、胴から手元はガッチリ。このメリハリが絶妙